



よりよい教育課程の編成のために

相双教育事務所長 武口 隆行

2学期は各学校において次年度の教育課程編成作業が始まり、「学校経営・運営ビジョン」においても目標設定や、これまでの取組の反省を生かした改善策について検討する時期となります。相双教育事務所においても、昨年度に策定された第7次福島県総合教育計画（「学びの変革推進プラン」）に基づき、相双が目指す教育の基本理念や、域内の課題を踏まえて、どのような点に重点を置くか、また、相双の子どもたちの「Well-being」実現のためにどのような点が必要かについて検討する予定です。これまでの話合いの中では、課を超えた「相互の連携」に加え、相双の子どもたちをどのように育てたいのかという思いを共有するとともに、それに合わせ

た事業や施策を展開し、本当の意味での「相双ならではの教育」を推進していくことを再確認したところです。

今の学校や教職員の皆さんには多くのことが期待され、課題や問題点を挙げるときりがないのではとさえ感じています。しかし、**実態を踏まえ取捨選択し、この考えのもとに進めるという哲学・戦略を定め、軸がしっかりしたストーリーを設計し、学校内外で共有すること、重点となる取組を保護者や地域とのネットワークを活用しながら教職員がチームとして取り組むことが大切であると考えます。**教育ビジョンに対する本気度やモチベーションを高め、ぜひ、成果実感がともなう「学校経営・運営ビジョン」の作成や教育課程の編成に取り組んでほしいと思います。「仏作って魂入れず」にならないように。



学び舎ゆめの森

大熊町教育委員会教育長 佐藤 由弘

この4月、大熊町の認定こども園・義務教育学校「学び舎ゆめの森」が、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故による会津若松への避難から実に12年ぶりに、0歳から15歳までの一貫教育を行う教育施設として、大熊町で再開を果たしました。そして、6月には新教育施設が大川原に完成して、8月25日の2学期始業式より共用を開始しました。始業式の朝、子どもたちは満面の笑顔で学び舎と出会い、これから始まる学び舎での生活に想いを馳せ、大きな期待と希望に満ち溢れていました。子どもたちの喜ぶ様子を見て、あらためて「学び舎は、誰のためにあるのか」という学校教育の原点を深く考えさせられました。震災発生当時、学校の

あり方の「そもそも」を考え、復興の進むべきビジョンを明確に示し、その方向性を見失うことなく、12年間一歩一歩着実に復興の歩みを進めてきた諸先輩方に敬意を表すると共に、大熊町を長年に渡り支援して下さった多くの方々にあらためて感謝です。「学び舎ゆめの森」が目指す教育は、「温故創新 わたしを大事にし、あなたを大事にし、ともに未来を紡ぎ出す」です。そのために、子どもたち一人一人が「ゆめを見つける、ゆめを分かち合う、ゆめを育てる」をステータスとして、誰一人取り残されることのない「福島ならではの」教育を充実・発展させ、20年、30年先の未来を担う人づくり、町づくりを、新たな教育施設を中心に進めていきたいと思っています。

リーディングスキルを視点とした授業づくり推進事業

- 研究協力校 相馬市立大野小学校
相馬市立中村第一小学校
相馬市立桜丘小学校
相馬市立中村第一中学校

リーディングスキルテストの結果を基に一人一人の読解力の実態を把握し、それを踏まえた授業改善を積み重ねることで、教員の指導力向上をねらいとしています。また、正確に文章を読み、進んで学習に取り組むために必要な基礎的・汎用的な読解力の育成をねらいとしています。

11月17日(金)に、代表校の桜丘小学校、中村第一中学校が研究発表会を実施する予定です。

小中英語パートナーシップ事業 ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業

- 拠点校Ⅰ 南相馬市立鹿島中学校
- 拠点校Ⅱ 南相馬市立鹿島小学校
- 協力校 南相馬市立八沢小学校
南相馬市立上真野小学校

「豊かな言語活動を通じた、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」を共通テーマとして授業実践を行い、授業公開等により研究成果を波及しています。

11月9日(木)に鹿島中学校、
15日(水)に鹿島小学校で授業公開を予定しています。



理数教育優秀教員活用事業

- 算数・数学科授業研究会
令和5年度算数・数学科コアティーチャー
吉田 惇一郎(相馬市立中村第一小学校)
村上 惇(相馬市立中村第一中学校)
 - 理科授業力アップ研修会
令和5年度理科コアティーチャー
佐藤 陽平(新地町立新地小学校)
菅野 貴恵子(飯館村立いいたて希望の里学園)
- 公開授業、研究協議等を通して、育みたい資質・能力を明確にした、魅力ある授業について実践に基づいた研修を行っています。明日からの授業づくりにつながる研修です。

不登校・いじめ等対策推進事業 スペシャルサポートルーム(SSR)

- いじめ防止ラウンドテーブル
参加校 広野町立広野中学校
8月18日(金)に環境創造センターで実施されたラウンドテーブルでは、代表の生徒が生徒会を中心としたいじめ防止の取組について発表し、県内各地区の代表校との交流を行いました。
 - スペシャルサポートルーム(SSR)
実践校 新地町立尚英中学校
相馬市立中村第一中学校
南相馬市立原町第一中学校
- 不登校対応に特化した教員が配置され、児童生徒の実態に応じた継続的な支援を行っています。

ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業

乳幼児期から学校卒業後まで、切れ目のない支援と学びを引き継ぎ、子どもや保護者を支える体制を整えることを目標に展開しています。

特に「地域支援体制整備事業」では、特別支援学校の地域支援センター、特別支援教育センター、教育事務所が地域支援チームとなり、学校や市町村教育委員会等に対する相談・研修支援を実施しています。地域の実情や就労関係に詳しい特別支援教育アドバイザーもおります。

特別支援教育に関する内容について一緒に考えたいと思っておりますので、お気軽にご活用ください。



ふくしま「未来の教室」授業充実事業 次世代のためのメディアリテラシー育成事業

- ふくしま「未来の教室」授業充実事業
実践協力校 相馬市立中村第二小学校
相馬市立中村第二中学校
- 校内の授業研究会や研究公開を行い、教員のICT活用指導力の向上を図るため教育実践を行っています。
- 次世代のためのメディアリテラシー育成事業
情報モラル教育研究校 新地町立福田小学校
新地町立尚英中学校
- 研究校同士で小中連携を図り、情報モラル教育を広げています。また、授業研究の成果をまとめ、指導に活用できる資料を作成します。(年度末に県のホームページに掲載予定)

道徳教育総合支援事業

- 道徳教育研究推進校
南相馬市立原町第一中学校
- 道徳教育推進教師を中心とした組織的な道徳科の授業改善をテーマに研究に取り組んでいます。「自己を見つめる子どもの姿」「多面的・多角的に考える子どもの姿」という視点で教師同士が互いに道徳科の授業を見合い、授業改善に生かしています。道徳教育推進教師を中心として、授業参観シートを活用しながらお互いの授業を見合い、日々の道徳科の授業の充実を図っています。
- 11月10日(金)に、授業を公開する地区別推進協議会を予定しています。

人権教育開発事業

- 推進地域 川内村
- (推進協力校 認定こども園かわうち保育園 川内村立川内小中学園)
- 研究テーマを「自他の大切さを認め合い、学び合う子どもの育成」とし、子どもたち一人一人の違いや多様性を尊重しながら、支え合い高め合う活動を展開しています。本事業は、子どもたちの人権感覚を磨くだけでなく、子どもに関わる全ての大人(教職員、保護者、地域住民等)が昨今の人権課題を理解し、自分の人権感覚を見つめ直すことも大きな目的です。学校・家庭・地域が一体となって人権教育を推進し「子どもから高齢者まで誰一人取り残さない村」を目指しています。
- 11月13日(月)に、授業を公開する研究発表会を予定しています。

キャリア教育推進事業

- 推進モデル校 南相馬市立大甕小学校
- 昨年度は各教科等で身に付けたい力をキャリア教育の視点で見直し、研究を行いました。
- 本年度は、キャリア教育の要とされる特別活動の中でも、学級活動(1)に重点を置き、全学年で授業実践を行い「将来とのつながりを考える力」や「他者と協力して物事を進めていく力」を育む取組を進めています。実践を積み重ねる中で、議題の決定や合意形成の在り方についても研究を深めてきました。
- 11月7日(火)に、授業を公開する実践研究発表会を予定しています。



学級・授業づくりセミナー

～暑さに負けず、熱く学び合った相双の夏～

今年度の学級・授業づくりセミナーは、8月1日(火)南相馬市立原町第二小学校を会場に「学級経営や授業づくりにおける改善の視点や方策について学び合い、指導力の向上を図る」ことを目的として行われました。

学級経営、国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・外国語、体育・保健体育、図画工作・美術、特別支援教育の9講座を開設し、49名の参加がありました。

参加者がまとめた研修振り返りシートには、「すぐにも実践に生かせそうなことを学ぶことができました。2学期を迎えるのが今から楽しみです。」「今後もワクワクする授業づくりに取り組んでいこうという思いが更になりました。ありがとうございました。」「今まで難しいと感じていたことについて分かりやすく学ぶことがで



きました。」「話し合える雰囲気があり、積極的に参加することができました。」などの声が寄せられ、充実した研修となりました。次年度も熱く学び合うセミナーを催していきます。どうぞご期待ください。

「家庭教育3つの提言」のすゝめ

社会教育担当より

かつて地域の中心には学校がありました。家庭、地域、学校が力を合わせて子どもたちを育てていました。

令和の今こそ、地域の存在をもう一度見直す必要があります。先日行われた家庭教育推進協議会では「家庭教育3つの提言」の活用について話し合いました。その中でも、今年度は「人や地域とのつながり」を重点としました。具体的には、「『あいさつ』から始まる家庭、地域とのつながり」と、「地域で見守る子どもたちの安心安全」です。地域であいさつに取り組んでみませんか。地域の力で子どもたちが安心して生活できる街にしてみませんか。

学校だけではなく、家庭や地域も巻き込んだ大きな波が起これば素敵ですね。



自分ごととして捉える

管理担当より

不祥事防止の話題になると必ず出てくるのが、不祥事を他人事と捉えず、自分の事として捉える「当事者意識」という言葉です。

6月14日に実施した域内服務倫理対策会議のテーマの一つが、「不祥事を自分事として捉えるために」でした。「当事者意識」を持つための有効な手段として、一番多くあげられたのが「事例研究」でした。事例を基に、不祥事を起こす原因や傾向に踏み込み、「自分にも思い当たる節があること」に気付くこと、「自分も不祥事の当事者になってしまうかも」という意識を共有することが大切であることを再確認しました。

「学校の中心的存在だった人なのに…」「まさかあの人が不祥事を起こすなんて」誰にでも不祥事を起こしてしまう可能性はあります。

皆さんの職場から不祥事が起こらない仕組みを作るための「事例研究会」を見直してみてもいいのではないでしょうか。



【相双域内の今後の主な研究発表会等の予定】

- キャリア教育モデル校実践研究発表会
令和5年11月 7日(火) 南相馬市立大甕小学校
- 小中英語パートナーシップ事業拠点校Ⅰ・Ⅱによる授業研究会
令和5年11月 9日(木) 南相馬市立鹿島中学校
11月15日(水) 南相馬市立鹿島小学校
- 道徳教育地区別推進協議会
令和5年11月10日(金) 南相馬市立原町第一中学校
- 川内村人権教育研究発表会
令和5年11月13日(月) 川内村立川内小中学園
- 「リーディングスキルを視点とした授業づくり」推進地区授業研究発表会
令和5年11月17日(金) 相馬市立桜丘小学校・中村第一中学校
- ふくしま「未来の教室」公開授業研究会
令和5年12月 5日(火) 相馬市立中村第二小学校
相馬市立中村第二中学校
- 算数・数学科授業研究会(小学校)
令和6年 1月26日(金) 相馬市立中村第一小学校

「深い学び」を具現する 授業デザイン例

「主体的、対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント」や「深い学び」のカギとなる仕掛けや発問のヒントを掲載しています。5分間の授業動画付きのものもあります。

今後の授業構想や、教材研究にぜひご活用ください。

